

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	教室(内科学講座呼吸器内科学分野(大橋))紹介
別タイトル	Division of Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Toho University Ohashi Medical Center
作成者(著者)	松瀬,厚人
公開者	東邦大学医学会
発行日	2020.09.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 67(3). p.109 110.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2019 063
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD38609044

教室(診療科)紹介(118)

「教室(内科学講座呼吸器内科学分野(大橋))紹介」

内科学講座呼吸器内科学分野(大橋)

教授：松瀬厚人
医局長：小高倫生

内科学講座呼吸器内科学分野(大橋)は1999年に初代森憲二教授が退官されて以来、長らく空席となっていました。2014年4月に私、松瀬厚人が長崎大学第二内科より就任しました。2018年6月に新大橋病院が開院し、呼吸器内科の教室員一同も心機一転新しい病院で診療・研究・教育

に日々取り組んでいます。

我が国の二大閉塞性肺疾患である気管支喘息と慢性閉塞性肺疾患(COPD)の診療に関しては、当院には呼気一酸化窒素(NO)測定装置や強制オシレーション法による呼吸抵抗測定装置が常備されており、院内検査部の精密肺機能検査と合わせて、最新の呼吸生理学的検査を行っています。重症喘息、喘息COPDオーバーラップ、成人慢性咳嗽の最も頻度の高い原因である咳喘息、真菌を原因として喘息を合併するアレルギー性呼吸器疾患であるアレルギー性気管支肺真菌症等に関して、呼吸生理学的検査と血清バイオマーカーを組み合わせて病態解明や治療効果予測を行っています。また、これら喘息、COPD、慢性咳嗽、アレルギー性気管支肺真菌症については我が国の学会の診療ガイドライン作成にも携わってきました。

感染症分野においては、世界に類を見ない高齢化社会である日本において、高齢者の肺炎は今後も増加してゆくと考えられます。肺炎については、抗菌薬治療に加えて、外来でのワクチンによる発症予防や、口腔ケア、リハビリ部門との協力による再発予防、医療連携による早期退院、自立支援なども力を入れています。肺MAC症を代表とする非結核性抗酸菌症も近年増加傾向の著しい呼吸器感染症で



呼吸器内科(大橋)集合写真、呼吸器外科(大橋)、研修医を交えてのバーベキュー大会にて。

あり、自然増悪因子の解析により、早期に抗菌治療を開始すべき症例の臨床像を明らかにする検討を行っています。

旧病院では放射線治療が行えなくなった時期もあり、限局性の小細胞肺癌や放射線治療の適応のある III 期非小細胞肺癌を他施設へ紹介せざるを得ない時期がありました。新病院では高精度定位照射が可能な放射線治療装置に加え、超音波内視鏡・自家蛍光内視鏡システムも導入され、ガイドラインに沿った最新の肺癌治療が可能となりました。原因不明の胸水貯留症例に対しては、局所麻酔下胸腔鏡検査を行っており、胸水中の腫瘍マーカーと胸膜の肉眼所見の組み合わせによる良悪性疾患の鑑別を行っています。

2020 年には、我が国においても、SARS-CoV-2 感染症である COVID-19 が蔓延し、社会に大きな人的経済的被害をもたらしました。大橋病院も東京都の新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関として何名かの陽性患者を収容し

ましたが、呼吸器内科は主治医として院内感染対策室と協力しながら COVID-19 の診療にあたりました。何回か肝を冷やす経験もしましたが、皆の努力でこの原稿を書いている 2020 年の 6 月現在、院内感染を起こすことなく乗り切ることができたことを感謝するとともに、一刻も早い感染終息を祈っています。

内科学講座呼吸器内科学分野（大橋）は未だに歴史は浅いものの、最近 5 年間は毎年新入医局員を迎え発展段階にあり、やる気とチームワークの良さが自慢の若い教室です。目の前にいる患者さんを一人一人丁寧に診察しながら、診療、教育、研究面でこれからも東邦大学の発展に貢献してゆきたいと思います。

(松瀬厚人)

DOI : 10.14994/tohoigaku.2019-063